



# 災害時の乳幼児栄養 メディア向け情報

スリランカは母乳育児率が高い国だが、ストレスがかかると母乳が十分に出ないという俗説が母親たちの間にあった。大きな問題は、寄贈者や非政府組織（NGO）が、母乳育児をしている母親に、適切な管理なしに乳児用調整乳や哺乳瓶を配布していたことである。

寄贈者たちは、災害時の人工栄養がリスクを伴うことを知らずに、科学的根拠なしに感情的に行動した。さらに、マスメディアは赤ちゃんに栄養を与えることに熱心で、ミルクや哺乳瓶を供給するよう世間にアピールした。

保健省は、母親が母乳育児を続け、災害時の状況では持続不可能で危険な事態を招く可能性のある乳児用調整乳に切り替えることがないようにするため、多くの課題に直面した。

インド洋大津波後のスリランカ保健省の声明より

**白** 然災害や人災は人命を危険にさらすものであり、乳幼児は最も弱い立場に置かれます。ジャーナリストは、このような幼い子どもたちを守るために重要な役割を担っています。ジャーナリストの仕事は命を救うことができるのです。このガイドにはそのための情報が掲載されています。

## なぜ乳幼児は災害や緊急事態に弱いのですか？

赤ちゃんは免疫系が未発達の状態でもまれてくるため、災害時には生命を脅かす感染症にかかる危険性があります。

母乳で育てられている乳児の場合、母乳は食糧、清潔な水分、免疫を提供し、最悪の緊急事態から守ってくれます。赤ちゃんが生後1時間以内から生後6か月まで母乳だけを与えられ、そして2年以上母乳を与えられ続けた場合、最も強力な保護が得られます。乳幼児が幼いほど脆弱であるため、可能な限り母乳で育てることが重要です。

一方、母乳で育てられていない赤ちゃんは、本当に危険な状況に置かれている可能性があります。災害時には、清潔な水や電気・燃料が不足しがちで、不衛生な環境となります。このような環境では、乳児用調整乳を与えられている赤ちゃんは、感染症を発症するリスクがきわめて高いのです。下痢になりやすく、栄養失調、脱水症状、死につながりかねません。肺炎などの呼吸器感染症もよく見られ、死に至ることも少なくありません。ですから母乳で育てられていない乳幼児は、災害時に特別な支援の対象となる必要があります。

子どもは生後6か月を過ぎると、補完食（離乳食）を食べ始める必要があります。子どもが正常に成長・発育するためには、食べ物は栄養価が高く、安全で、十分な量でなければなりません。生後6か月から2歳までの子どもは、栄養失調のリスクがあるからです。

## 災害時や緊急事態に乳幼児に栄養を与える際の課題は何ですか？

災害時には、乳幼児の栄養や世話は、非常に困難なものとなる可能性があります。資源が乏しいことに加え、家族や社会からの支援が途絶え、生存するための行動を行うことが困難になることもあるかもしれません。母親や養育者の心理的健康が低下することもよくあります。乳幼児は状況の変化と母親の苦悩の両方に影響を受け、授乳や落ち着かせることが難しくなることもあります。

母乳の産生はストレスの影響を受けないにもかかわらず、多くの女性は、自分が経験したトラウマのために母乳の分泌量が減少したと信じてしまうのです。母親が移動中であったり、授乳するためのプライバシーがなかったりして、状況によって授乳回数が減ることがあります。それが母乳産生に影響することもあります。母乳は赤ちゃんが飲めば飲むほど、産生量が増えるからです。

多くの場合、災害時には乳児用調整乳などのミルクが寄付されます。こうした寄付は過剰なことや使用に適さないことがあり、また、安全に使用するために必要な資源もないままに、すべての赤ちゃんに広く配られることがよくあります。その結果、母乳育児が減少し、ミルクの使用が増加し、感染症、栄養不良、そして死亡に直結する事態となってしまうのです。そうすると、乳幼児への支援は、さらに困難になっていきます。メディアの報道で、ストレスで母乳育児ができない女性がいると書いたり、寄付を呼びかけたりすると、直接的に乳児用調整乳などのミルクの寄付を増加させる結果となっていきます<sup>1</sup>。

1 Gribble, K. D. (2013). Media messages and the needs of infants and young children after Cyclone Nargis and the Wen Chuan Earthquake. *Disasters*, 37(1), 80-100.

## 災害時や緊急事態に乳幼児の生存を守るには？

母親や養育者が乳幼児の世話をするための適切な支援を受けることで、乳幼児が生き延びる可能性は最大になります。これには以下が含まれます

- 母親と養育者を優先させて食糧、水、避難所などの資源が利用できるようにし、心理的支援で母親と養育者の心身の健康をサポートする
- 母乳で育てている女性が授乳を開始・再開・継続できるよう、また、授乳におけるあらゆる困難を克服するために、安全な場所、母乳育児カウンセリングなどの実践的支援を提供する
- 母乳で育てていない乳幼児の母親や養育者に、乳児用調製乳、清潔な水、調乳・哺乳用具、教育、健康状態のモニタリングなど、的を絞った支援を提供する
- 乳児用調整乳、その他のミルク、哺乳瓶を含むベビーフードやミルク製品の寄付や無秩序な配布を防止する
- 6～23 か月のすべての子どもが適切な補完食を利用できるようにする

## ジャーナリストには何ができるでしょうか？

災害時に乳幼児を守るために、メディアは有益な援助を奨励し、危害をもたらす援助を阻止する情報を広めることができます。メディアは、災害時において乳幼児は脆弱であり、感染症がリスクとなることを強調すると同時に、感染症から乳幼児を守る上で母乳育児がいかに重要であるか、また、母乳以外のミルクを与えることがいかにリスクを増大させるかについても伝えることができます。困難な状況にもかかわらず母乳育児を続ける母親の話を紹介し、その勇気、強さ、回復力を強調することもできます。また、ストレスで母乳の出が悪くなったと信じていた女性が、支援を受けて母乳育児を続けられるようになったことを伝えることもできます。母乳で育てられていない乳児が災害時に直面するリスクについて概説し、乳児の安全を守るために対象が絞られ管理された支援（乳児用調製乳、水、洗浄・授乳用具、医療ケアなど）の必要性について説明し、乳児を支援する団体に金銭的な寄付をするよう個人に奨励することもできます。

ジャーナリストは、災害時の乳児用調製乳やその他のミルクの寄付によって起こりうるリスクについて報道し、リスクのある寄付はしてはならないことを明言することができます。そのような寄付が届くのを防ぎ、必要な支援が提供されるための金銭的寄付を促進するためには、特に緊急事態が始まった直後から、援助団体にはメディアの助けが必要なのです。

## 主要メッセージ

災害時や緊急事態における乳幼児のニーズについてメディアが伝えるメッセージは、広範囲に影響を及ぼす可能性があります。一般市民、NGO、援助機関は、乳幼児を支援したいと考えています。災害時における乳幼児の栄養について適切な情報を伝えることは、リスクを生じる事態を防ぎ、最も弱い立場にある人々を病気や死から守ることにつながるのです。

## 主な連絡先

Get information and resources on Infant and Young Child Feeding from the Emergency Nutrition Network (ENN).  
<https://www.enonline.net/mediahub>

Report violations of the International Code of Marketing of Breastmilk Substitutes, including donations and uncontrolled distributions, to IBFAN ([code@ibfan-icdc.org](mailto:code@ibfan-icdc.org)) and to UNICEF and WHO at country or regional level. WHO HQ: [cah@who.int](mailto:cah@who.int) and [nutrition@who.int](mailto:nutrition@who.int) UNICEF HQ: [Nutrition@unicef.org](mailto:Nutrition@unicef.org)

Direct questions regarding humanitarian coordination to the nutrition country cluster coordinator. Global Nutrition Cluster: [gnc@unicef.org](mailto:gnc@unicef.org)

Direct technical and coordination questions on Infant and Young Child Feeding in Emergencies to UNICEF at country level. [www.unicef.org/where-we-work](http://www.unicef.org/where-we-work)

For similar questions in refugee settings, contact UNHCR at country level.

## 主要な参考文献

Operational Guidance on Infant Feeding in Emergencies. IFE Core Group, 2017. (日本語版あり)  
[www.enonline.net/operationalguidance-v3-2017](http://www.enonline.net/operationalguidance-v3-2017)

The International Code on the Marketing of Breastmilk Substitutes, WHO, 1981 and subsequent relevant World Health Assembly resolutions <http://ibfan.org/the-full-code>  
邦訳「母乳代用品のマーケティングに関する国際規準」  
[https://jalc-net.jp/dl/International\\_code.pdf](https://jalc-net.jp/dl/International_code.pdf)

Lifeline Production Manual. BBC Media Action.  
[www.bbc.co.uk/mediaction/publications-and-resources/brochures/lifeline-programming](http://www.bbc.co.uk/mediaction/publications-and-resources/brochures/lifeline-programming)

Global Breastfeeding Collective. WHO and UNICEF, 2017.  
[www.unicef.org/breastfeeding/](http://www.unicef.org/breastfeeding/)

このメディアガイドは、ENNがコーディネートした、災害時や緊急事態における適切な乳幼児栄養の保護と支援に取り組む国際的な省庁間／専門家協力組織であるIFEコアグループによって作成された。  
[www.enonline.net/ifecoregroup](http://www.enonline.net/ifecoregroup)

このガイドブックの作成は、米国国際開発庁（USAID）を通じたアメリカ国民の惜しみない支援によって可能となった。

